

市史資料室だより

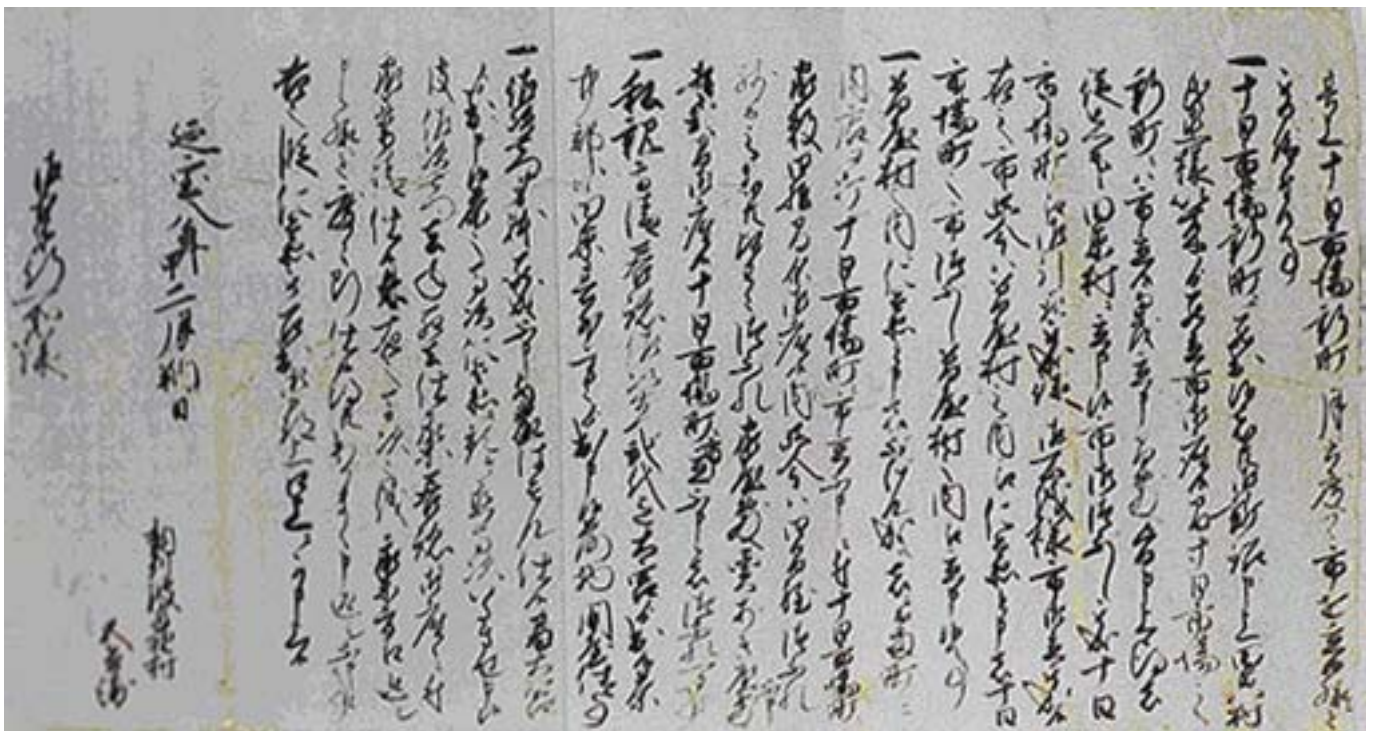
発行 秦野市教育委員会 生涯学習課文化財班（市史資料室）
TEL 0463-83-8380 FAX 0463-83-8381
E-mail sisi@city.hadano.kanagawa.jp

平成 23 年 6 月発行
第 5 号
〒 257-0042
秦野市寿町 3 番 12 号
(はだのこども館内)

秦野十日市場

十日市場と市神の変遷

十日市場に関わる史料として、『秦野誌並震災復興誌』（大正 14 年刊）や『中郡勢誌』（昭和 28 年刊）などに紹介された延宝 8 年の古文書は下宿の三武家の所有のものであった。この史料は前文が欠けていて、表題は不明ではあるが、馬継の権利をめぐるの訴訟文書で、その中に市場の変遷が多少表記されている。それは「田原の市がつぶれ、十日市場新町が当地方の商業の中心を占めたのもつかの間、こんどは曾屋村の仁兵衛という人物が、同村の両町に店を建てるに至った。この店の繁昌によって、十日市場は勢いを失った」（『秦野市史通史 2』）というものである。



（「延宝の古文書」 秦野市蔵）

（前欠）

其上十日市場新町月に六度づつ市を立候様にと被為仰付（おおせつけられ）候事。

一 十日市場新町に罷出候者共御訴訟申上、田原村氏直（北条）様以来より罷立市御座候間、十日市場之新町には市立候ても、立申間敷旨申上候ても、立申上候得ば、従先年田原村に立申候市御つぶし被成、十日市場町え御引取被成、従御公儀様市御立被成候。右之市只今は曾屋村之内え仁兵衛と申者十日市場町之市御つぶし、曾屋村之内え立申候事。

一 曾屋村之内に仁兵衛と申ぶげん（分限）成る者にて、両町に内店を打、十日市場町に市立不申に付、十日市場町に家数四拾間余御座候内、只今は四間程つぶれ不申、残て之者共皆々つぶれ、家屋敷売、あき屋敷拾貳間御座候。十日市場町に市立不申候は、つぶれ可申事。

一 私親高清居隠佐次右衛門貳代迄大宮より出候茶、中郡・小田原其外方々より出申候荷物問屋仕候事。

一 佐次右衛門身躰罷成不申に付、家はそん（破損）仕候間、大宮より出申候茶之馬次仁兵衛に預ヶ置、馬次いたさせ申候。彼（かの）佐次右衛門去年死去仕、我等居隠に御座候に付、家普請仕候は、右之馬次之儀我等方え返し申候様にと度々断仕候得共、わがまま申、返し不申候事。

右之段仁兵衛被召出、御尋上、口上に可申上候

延宝八年申二月朔日

相州波多野村 五兵衛

御奉行所様

この史料は『秦野町誌』（昭和29年刊）には三武良一氏所蔵とあり、『中郡勢誌』では三武舜郎氏所蔵とある。現在は秦野市所蔵である。『秦野町誌』編さん時に三武良一氏から秦野町が譲り受けたものと思われる。いずれにしても、三武家は明治期に山本旅館を経営し、明治7年には秦野の最初の郵便局を開設している（『秦野町誌』）。明治31年に刊行された『日本全国商工人名録』には「山本楼 三武隆太郎」とある。

この三武隆太郎氏は市神の所有者として石野瑛氏が昭和10年に調査している。「同町下宿なる三武龍太郎氏方に保存する西田原出土の板碑の上半分のものを観た。阿弥陀の種字を彫ってある。享保の頃から開かれた十日市場の市神の本尊として祀られたもので、市場神は今は別に小祠を建て、豊受市神が祀ってある」（『武相叢書考古学集録第三』）。隆の字の違いはあるものの、昭和10年頃は三武隆太郎氏が市神（板碑）を所有していたことがわかる。現在は寿町の宇山家で管理されている。

この経緯は石塚利雄氏が『秦野市史研究第9号』で「山本旅館が明治三十年頃転居のとき、その保管を富永キン殿に依頼し、富永殿が昭和二十年頃転居のとき宇山氏に保管を依頼したという」と書いている。この富永氏については落合政一氏の『秦野誌並震災復興誌』に「郵便局を開設した三武左司右衛門氏の次男で富永源次郎と云う人は現在入船町に於て下駄商を営み」とあるので、親族と思われる。ここで市神の所有が三武家と富永家に分かれるのだが、親族である以上大きな問題はないと考える。また富永源次郎氏

は山本源次郎とも呼ばれ、山本姓であったかのような記述も一部にはある（『大墨第7号 曾屋の寺社を尋ねて 山田晴子氏』）。これは山本旅館との関連を感じさせる。

いずれにしても市神（板碑）が昭和20年頃まで三武家一族に保管されていたということは、市の範囲が下宿から仲宿、上宿、片町等に広がったとしても、市神社は下宿に残されたということになる。江戸時代市神社は宝塔院の境内に祀られていた（『新編相模国風土記稿』）。宝塔院は明治時代に廃寺となり、現在その地は市立ことぶき公園となっている。

考えられることは、廃寺の後三武家が市神（板碑）を引き取り保管したということである。石野氏の調査時には、市神社は小祠に板碑の代わりに豊受市神が祀られていたのである。その場所は宇山ガソリンスタンドの南側と伝わる。しかし、田原の市と三武家の関係は不明である。またこの市神が田原の市の市神であったかどうかは、判別できない。ちなみにこの板碑は南北朝～室町前期のものとされている（『図説 秦野の歴史』）。時代的には、田原の市神であった可能性もあり、曾屋村に市が移ったとき、田原の土地にあった板碑を市神とした可能性もある（石野瑛氏は西田原出土と書いている）。

市場にとって市神は大切なものであった筈で、「市が立つ最初の日には必ず行われた行事があった。それは『市祭り』である。市が開かれる場所に市神を勧請するための祭りである。この市神は市を守護し、市の繁栄や幸運をもたらす神として祀られ、市場では重要な存在になる。仮にこの市神を穢すと市は開けなくなる」（『伊勢原市史通史編近世』）。とあるように十日市場でも市開催にあたっては、市神社で祭礼が執り行われたことだろう。その場所は宝塔院の境内であり、三武家が世話人となったと思われる。しかしそれを伝えるものは何もない。



133 寿町稻荷神社板碑

『図説 秦野の歴史』
52 ページより転載



↑稲荷社

『秦野の文化財 第5集』
26 ページより転載

（「市神」写真は同じもの。現在は寿町宇山家で管理されている。）

三齋市と六齋市

十日市場を考えたとき、十日ごとに開かれる市を想像する。つまり、月三回開催される市である。ところが曾屋村の十日市場は六齋市であった。このことは十日市場が、江戸時代以前に市場として存在していたことを意味している。ちなみに庄園制時代の庄園内の市場は月三回の三度市が一般的であったという。これが「15・16世紀における庄園体制の解体と農民層の地位向上にともなう生産力の発展とによって、しだいに月六回の定期市へと発展していった」（『六齋市の展開』杉山博）わけで六齋市は一般的には後北条氏の時代に栄えたものとされる。

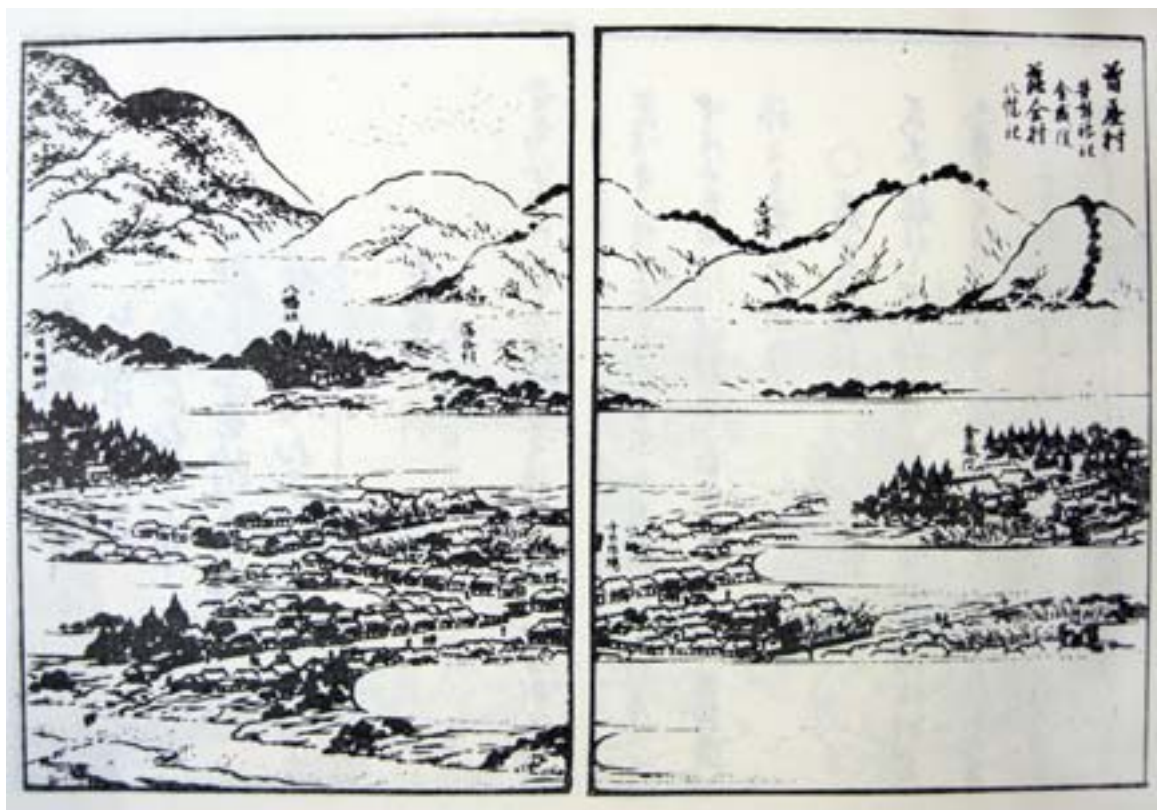
秦野地域では、田原の市が北条氏直の時代に開設されている（『秦野市史通史2』）。ところが、「六齋市は徳川氏が入国して検地を施行し、『わき百姓』＝直接生産者（封建的農民）の把握がはじまると貨幣納の終焉をもたらし、六齋市を根底からくつがえした。六齋市が徳川初期に消えるのもこの間の事情を物語っていよう」（『後北条氏の発展と商業』中丸和伯）というように江戸時代になると消滅していくのが普通であった。曾屋村の十日市場は、天正年間に田原村に開設されていた市が、年代不明ながら曾屋村に領主の命で移され、中世の六齋市を踏襲しながら明治まで開催された。ここには撰銭令に基づく中世の市と矢倉沢往還の馬継の宿駅的な機能を求められた近世の市の違いがあったと感ぜられる。

地名としての十日市場

庄園時代に存在した市が途絶えた後も地名として残ったことは、江戸時代初期の資料に「元和元年（1615）十箇市村」「慶安4年（1651）中郡十日市場」（『秦野市史通史2』）と地名として使用されていることで想像される。それより古く高野山高室院の『月牌帳』には慶長年間（1596～1615）に十日市場が地名として使用されている。ちなみに同資料には、曾屋村の地名として、「波多野」「北ハタノ」「ハタノ・十日市場」「曾屋郷」が出てくる（『寒川町史研究第4号』）。このほかにも江戸時代には「乳牛」「御門」「齋家」「山谷」「蔵前」などもあり、支配が分かれた、所謂相給村の区分の元になったと思われる。また、十日市場は『新編相模国風土記稿』には小名として表われ、『相中留恩記略』には四ツ角付近に表示されている。地名としては四ツ角周辺にあったことは間違いなさそうだ。

（次ページの図『相中留恩記略』は、全26冊。天保・安政年間に鎌倉郡渡内村名主福原高峯が江戸の画家長谷川雪堤の協力で、相模一国の遺蹟と名勝を探訪して編集した図絵形式の地誌である。中央に十日市場が表記されている。）

曾屋村から落合村を眺めた絵図（『相中留恩記略』）



市の種類と在郷町化の関係

在郷町とは「江戸時代、農村部に成立した商工業集落を総称していう」（『国史大辞典』吉川弘文館）。すなわち農村の中の商業地域である。曾屋村の十日市場が在郷町化するのには、『秦野市史通史2』でも具体的に伝える資料はないとしているが、江戸前期からしだいに形成されていったと推測している。現在に残る上宿、仲宿、下宿、片町は十日市場に含まれ、曾屋村の中の在郷町であった筈である。

市に出る見世（店）にはいくつかの種類があった。常設店舗は内見世、道路上にかけの店は中見世または高見世、通りと屋敷の間は前見世と言った。江戸時代に三八の日に市がかけられた伊勢原村の明和9年（1772）の例ではあるが、市日には道路上に中見世をかけ、新たに加わった隣村の伊勢原片町（板戸・田中村）では内見世で商売することとし、村外から来る商人は市場で中見世のみ営業することを規定している。また伊勢原市場に定会所を設置し、市日に伊勢原村から行事（世話人）を二人、板戸・田中村から総代行事一人を出し、それぞれ立会の上で銭相場を決め、行事がこれを通知した（『伊勢原市史通史編近世』）。

秦野の十日市場も内見世、中見世が存在したと考えられる。また場所によって時代によって細かな見世の取り決めがなされた筈だ。そして、伊勢原村と同様に定会所が設けられ、行事によって銭相場が決められたと考えられる。曾屋村は幕府が相模国内に設けた米相場・銭相場の報告地点として、藤沢宿・小田原宿と共に選ばれている（『秦野市史通史2』）。在郷町として存在感をもっていた証である。

市の売物は雑穀・農道具・薪・秣（『曾屋村明細帳』享保11年）であり、隣村より商いに来たと記している。明治になっても市は消えず、曾屋村の明細帳にもその存在が記されている。「当村之儀は月々一、六に市立、米穀・雑穀売買仕来、隣村より小商人入込、諸品売買仕来」（『曾屋村明細帳』明治3年）。この明細帳によると曾屋村の商家は農業を兼ねたものだとしても、明治初期には商家として38（他に大工4、左官1）を数えるまでになっている。

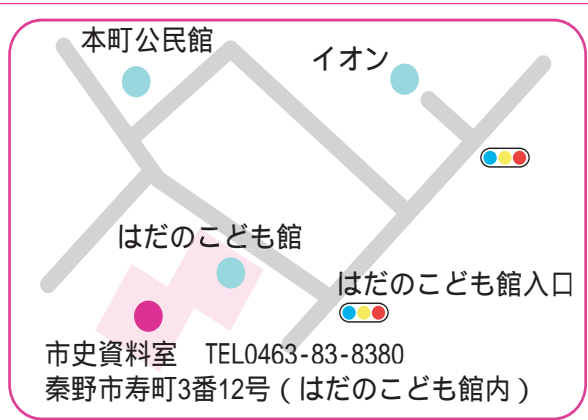


（「十日市場図 藤井白映画」想像図であり、実際の十日市場の様子を描いたものではない。）

（文責 櫛田和幸）

市史資料室には、皆さんのちょっとした疑問に答えてくれる、秦野の歴史や自然に関する本をはじめ、神奈川県史や県内・県外の自治体史などが数多く揃っています。

本の閲覧や貸し出し、秦野市史刊行物の販売などを行っています。どうぞお気軽にご利用ください。



活動紹介

ふるさとハイキング ^{ひげそう} 髭僧の滝と ^{おし} 御師の村を訪ねて

平成 23 年 2 月 15 日（火）

蓑毛バス停～大日堂～御師集落跡～自然観察の森～緑水庵

蓑毛の大日堂や御師集落跡を訪ねて歩きました。積雪のため、予定していた「髭層の滝」の見学は断念しました。



写真資料展 私たちの郷土（南地区編）

平成 23 年 2 月 1 日（火）～ 15 日（火）

南が丘公民館 1 階ロビー

昭和 30 年頃に撮影された南地区の写真をパネル展示しました。



ミニ資料展・歴史講座 秦野十日市場

ミニ資料展 平成 23 年 2 月 1 日（火）

～ 3 月 31 日（木）

市史資料室入口通路（はだのこども館内）

歴史講座 平成 23 年 2 月 26 日（土）

はだのこども館 研修室 B



十日市場に関する展示と、市史資料室職員による歴史講座を開催しました。

ミニ展示 古文書にみる江戸時代の堀山下

平成 23 年 3 月 1 日（水）～ 15 日（水）

桜土手古墳展示館 1 階

堀山下の井上家から寄贈された近世文書を展示しました。米倉氏の領内支配の様子がわかる条目の写しと、これまで確認されていなかった年貢割付状を紹介しました。



ミニ展示 絵図と古文書にみる江戸時代の千村・堀山下

平成 23 年 4 月 9 日（土）～ 30 日（土）

渋沢公民館 1 階ロビー

本町・関口家から寄贈された千村絵図と、堀山下・井上家から寄贈された近世文書を展示しました。



★これからのもおし★

写真展 秦野 1990（開催中）6 月 30 日（木）まで 市史資料室入口通路（はだのこども館内）

ミニ資料展 城郭としての弘法山 7 月 1 日（金）～ 8 月 31 日（水）

市史資料室入口通路（はだのこども館内）

写真資料展 私たちの郷土（西地区編） 8 月 20 日（土）～ 9 月 10 日（土）

渋沢公民館 1 階ロビー

～写真が伝える秦野の現代史～

写真集

『秦野 2010 未来に伝える秦野の姿』販売中！

現代の秦野の姿—暮らしや町並み、季節の風景などをとらえた写真 400 点を掲載

本書は、「未来に伝える秦野の姿」をテーマに、暮らし、町並み、季節の風景と動植物など 400 枚の写真で「2010 年の秦野」を紹介したものです。20 年前の『秦野 1990 HADANO の今』、10 年前の『秦野 2000 写真に残す秦野の 1 年』に続くもので、10 年ごとに秦野の姿をとらえ、記録として将来に残すことを目的としています。

今回は、2010 年 2 月の大雪での冬景色、5 月に行われた全国植樹祭に関わるイベント風景、守り続けられる民俗行事、10 年の間に新たに建築・移転した日赤病院や秦野警察署などのほか、日常の風景を数多く掲載しました。



A 4 サイズ
144 ページ
オールカラー
2,000 円



『秦野 1990』 400 円
『秦野 2000』 1,600 円
こちらも好評販売中！

販売場所

- ★市史資料室 秦野市寿町 3-12 (はだのこども館内)
- ★桜土手古墳展示館 秦野市堀山下 380-3
- ★市役所前ファミリーマート
- ★市内公民館 (予約販売、2011 年 7 月末まで)